

本時のねらい

「さくらさくら」の音階を使って作曲をし、日本の音階に親しみ、リコーダーのアンサンブルをする。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

ミュージックラボのソングメーカーを用いて音を入力することで、すぐに曲の確認ができ、日本の音階のもつ雰囲気を知る。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC
- ・テレビ
- ・ミュージックラボ（ソングメーカー）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「さくらさくら」を聞き、使われていない音があることに気づく。 ○めあての確認 「日本の音階を使って『さくら変奏曲』リコーダーアンサンブルを作ろう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソングメーカーを使うと音階が上下で表示されるので、視覚的に「ソ」と「レ」が無いことに気付きやすい。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○2人組でパートを分けて作曲する。 <ul style="list-style-type: none"> ・下のパートをオスティナートで作る。 ・上のメロディを2人で分けて作曲する。 ○分けて作ったものを合わせて作った曲を確認する。 ○打楽器を入れたり、音色や速さを変えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小節ごとに線で区切られているので拍子が狂うことが無く、2人組で分担して音を入れても、後で曲をつなげた際に違和感無く作曲ができる。 ・作ったものがどんな曲になっているかすぐに再生できるので、確認しやすく、試行錯誤しながら音に親しむことができる。 ・すぐに再生でき、メロディラインが線で表示されるので、音の上がり下がり、下の旋律と合っているかを確認しやすい。 ・音色を変えたり、打楽器を簡単にできるので、日本の音階に合う楽器やリズムは何なのかを感じながら曲を作ることができる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○作った曲のスクリーンショットを取り、階名を書き込む。 ○リコーダーで変奏曲の演奏の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったものをスクリーンショットして画像保存することで、楽譜としてその画像を使えるようにする。 ・音階が色分けされているので、スクリーンショットに音階を書く際にも書きやすい。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：「さくらさくら」の音階を使って一人で作っている場面



写真2：友だちのメロディと合わせ、音色を変えたり打楽器を加えたりしている場面



写真3：作った音に階名を書き、リコーダーで練習している場面

児童生徒の反応や変容

- ・紙面上にメロディを作った場合、確認するためには楽器で演奏しなければならず、技能によって差が出てしまう。しかし、ソングメーカーなら演奏が苦手でなくても確認できるので日本の音楽の様子を気軽に感じることができていた。
- ・音色やリズムも自由に変更できるので、どんな音になるだろうと楽しみながら、作ったメロディを聴いている児童が多かった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・作曲を楽器演奏の技能に関係なく、誰でも楽しむことができる。
- ・曲を保存し、次時に簡単に続きの作業をしたり変更したりすることができるのもICTの強みだと感じた。